

# 金沢大学短期留学プログラム第1期 (1998年10月から1999年9月)の報告

岡 沢 孝 雄

金沢大学短期留学プログラム (Kanazawa University Student Exchange Program:KUSEP) 第1期は金沢大学と交流協定を結んでいる海外の大学からの留学生を受け入れ1998年の10月に開講され、1999年9月に修了した。

ここで学ぶ留学生は広く世界の学生や金沢大学の学生との交流を進めつつ日本への理解を深めていくこと及び国際社会で使える知識を学ぶことが期待されている。このプログラムの特徴は、1年という短い留学期間であるため来日前の日本語学習の負担が軽くなるよう、英語による日本事情・日本文化の授業や専門科目の授業を受けることができることと、来日後は日本語が必修になっており初級から上級まで留学生のレベルにあった日本語の学習ができることにある。

第1期はアジアの協定大学2校、オセアニア1校、ヨーロッパ3校、北米4校から、10月受け入れ20名、4月受け入れ7名、計24名の留学生が本プログラムで学んだ(表-1)。それらの学生のうち出身大学で学部レベルの学生18名は留学生センターに所属し、出身大学で修士課程にいる学生やそれに相当する学年の学生6名はそれぞれの専門が学べる研究科に所属した。開講された授業科目と担当教官のリストは表-2に示した。

表-1 金沢大学短期留学プログラム学生

	氏 名	出 身 大 学	国	金沢大学での所属
1年間 (秋学期・ 春学期)	Li Dexia (李徳霞)	蘇州大学	中国	留学生センター
	Rully Rahadian	バンドン工科大学	インドネシア	自然科学研究科
	Jirasaowapak Since	モンクット王工科大学	タイ	自然科学研究科
	Nuampituk Preeyanuch	モンクット王工科大学	タイ	自然科学研究科
	Lisa McLachlan	オーストラリア国立大学	オーストラリア	留学生センター
	Simon Johnson	ニューヨーク州立大学バッファロー校	アメリカ	留学生センター
	Chuk Lam	ニューヨーク州立大学ニューボルト校	アメリカ	留学生センター
	Tiffany Hill	ウィリアムアンドメアリー大学	アメリカ	留学生センター
	Nathalie Briand	ダブリンシティー大学	アイルランド	留学生センター
	Sandra Prendergast	ダブリンシティー大学	アイルランド	留学生センター
	Marcin Szumilo	ルブリン工科大学	ポーランド	自然科学研究科
	Zbigniew Zielonka	ルブリン工科大学	ポーランド	自然科学研究科
	Leika Hancock	リバプールジョンモアズ大学	イギリス	留学生センター
	Konstantinos Konstantinidis	リバプールジョンモアズ大学	イギリス	留学生センター

1年間 (秋学期・春学期)	Clive Ransom	リバプールジョンモアズ大学	イギリス	留学生センター
	Steven Resco	リバプールジョンモアズ大学	イギリス	留学生センター
半年間 (秋学期)	Ulrich Dietze	ジーゲン総合大学	ドイツ	経済学研究科
	Johanna Grundkoetter	ジーゲン総合大学	ドイツ	留学生センター
	John Baird	ウイリアムアンドメアリー大学	アメリカ	留学生センター
半年間 (春学期)	Lisa Liu	タフツ大学	アメリカ	留学生センター
	Miyeon Lee	タフツ大学	アメリカ	留学生センター
	Naomi Wartel	タフツ大学	アメリカ	留学生センター
	Jefferson Litten	タフツ大学	アメリカ	留学生センター
	Alexander Wong	タフツ大学	アメリカ	留学生センター

表-2 教育プログラム

科目名	コーディネーター	単位数	開講学期
必修科目			
日本語	三浦 香苗 (留学生センター)	5単位	秋学期、春学期
選択必修科目			
日本人の心理と思想	小牧 純爾 (文学部)	2単位	秋学期
化学風土紀-加賀・能登のサイエンス-	本浄 高治 (理学部)	2単位	秋学期
日本の社会と文化	志村 恵 (文学部)	2単位	秋学期
日本の自然と生物	中村 浩二 (理学部)	2単位	秋学期
選択科目			
英語学演習 I	斉木麻利子 (教育学部)	2単位	秋学期
東アジアの国際政治	ポール・ミッドフォード (法学部)	2単位	秋学期
日本経済:発展の過程と世界経済との関係	小林 昭 (経済学部)	1単位	秋学期
身近な微生物と地球環境	田崎 和江 (理学部)	2単位	秋学期
数学 A	石本 浩康 (理学部)	2単位	秋学期
Introduction to Modern Physics	久保 治輔 (理学部)	2単位	秋学期
Introductory experimental Physics	鈴木 治彦 (理学部)	2単位	秋学期
ハローケミストリー-化学最前線-	須原 正彦 (理学部)	2単位	秋学期
化学課題研究	須原 正彦 (理学部)	3単位	秋学期
植物と環境	和田敬四郎 (理学部)	2単位	秋学期
計算科学 A	伊藤 達郎 (理学部)	2単位	秋学期
東洋医学	鈴木 永雄 (薬学部)	2単位	秋学期
土木建設工学総論	鳥居 和之 (工学部)	2単位	秋学期
計算機援用工学演習	山崎 光悦 (工学部)	2単位	秋学期
数学 B	一瀬 孝 (理学部)	2単位	春学期
物質化学概論	須原 正彦 (理学部)	2単位	春学期
化学課題研究	須原 正彦 (理学部)	3単位	春学期
計算科学 B	樋渡 保秋 (理学部)	2単位	春学期
電気・電子・情報工学の技法	作田 忠裕 (工学部)	2単位	春学期
流体力学と伝熱	木村 繁男 (工学部)	2単位	春学期
高分子化学入門	石田真一郎 (工学部)	2単位	春学期
自主研究		2単位	秋学期、春学期

日本語は現在留学生センターが実施している総合日本語コースのAレベル（ゼロ初級）からFレベル（上級）のいずれかで学ぶ。クラス分けは開講前に行われるプレイスメントテストによって決められる。第1期秋学期での受講状況は、Aレベル9名、Bレベル6名、Cレベル3名、Fレベル1名、春学期はAレベル3名、Bレベル4名、

Cレベル11名、Dレベル2名、Fレベル1名であった。

自主研究では留学生が希望する研究テーマを提出してもらい、学部レベルの留学生についてはそのテーマについて指導教官を捜し紹介した。修士レベル留学生については研究科での受け入れ教官が指導に当たった。

日本語が堪能な留学生は学部で正規に行われている講義の聴講も可能である。春学期には文学部、法学部、教育学部の5科目を6名の留学生が履修した。

正規の授業での学習のほかに、希望者は2度の研修旅行(大阪・京都方面及び松本・高山方面)、白山一里野へのスキー旅行、ホームステイ等の行事に参加した。そのほかに、日本文化を実地体験する課外活動が企画され、お茶、お華、和菓子工場の見学、大樋焼き(お茶の茶碗を作る)、座禅(大乘寺)、山中塗り(漆)等を実際の現場に行って自分の身体を使い体験した。正規の授業以外の活動も留学生が日本をより深く理解する上で非常に重要なものであり、さらに充実させていく必要がある。